

インフルエンザ流行における学校閉鎖と個人防衛策に関する検討

新型インフルエンザの第一波流行においては、ワクチンや抗ウイルス薬等を主体とした対策が実施できない可能性が存在する。そのような状況下で新型インフルエンザによる被害を最小化するには、感染者の隔離や濃厚接触者の自宅待機、学校や職場の閉鎖、集会の中止等の公衆衛生対策が重要である。流行規模を規定するのは、ウイルスの疫学的性質（潜伏期間、感染期間、基本生産数、世代間隔など）、対象集団の特性（年齢、家族構成、行動パターンなど）、集団における保健医療サービスや行政の整備状況という3つの要素である。そのうち、対象集団における接触頻度を低減することが公衆衛生対策の主眼である。学校閉鎖は有効性が認められているものの、社会生活、経済活動など様々な面に影響を与えるため、他の対策と同様に、実施に当たっては慎重な検討が必要である。手指衛生やマスク着用等の個人防衛策の効果は明確ではないとされてきたが、近年行われたランダム化比較研究では、日常的なマスク着用および手指衛生が有効であることを示唆している。個人防衛策は、低コストであり、個人で実施可能であり、学校閉鎖や職場閉鎖等と比較して社会的な影響も与えることもないので、流行段階に関わらず積極的に実施することが望ましいとされている。

本抄読会では、感染症流行モデルを用いてシミュレーションを行い、学校閉鎖と個人防衛策の有効性について検討を行った結果を報告する。

<参考文献>

1. Blendon RJ, Koonin LM, Benson JM, Cetron MS, Pollard WE, Mitchell EW, et al. Public response to community mitigation measures for pandemic influenza. *Emerg Infect Dis.* 2008;14(5):778-86. Epub 2008/04/29.
2. Ferguson NM, Cummings DA, Fraser C, Cajka JC, Cooley PC, Burke DS. Strategies for mitigating an influenza pandemic. *Nature.* 2006;442(7101):448-52. Epub 2006/04/28.
3. Fraser C, Donnelly CA, Cauchemez S, Hanage WP, Van Kerkhove MD, Hollingsworth TD, et al. Pandemic potential of a strain of influenza A (H1N1): early findings. *Science.* 2009;324(5934):1557-61. Epub 2009/05/13.
4. Sypsa V, Hatzakis A. School closure is currently the main strategy to mitigate influenza A(H1N1)v: a modeling study. *Euro Surveill.* 2009;14(24). Epub 2009/06/27.